

地域課題の解決に向けた取組

民国連携イノベーションによる

「新しい林業」の推進

根釧西部森林管理署

【はじめに】

根釧西部森林管理署は、釧路総合振興局管内の中央に位置し、8市町村にまたがる約 18.2 万 ha の国有林を管理しています。管内は、①釧路湿原の上流域やラムサール条約に登録された別寒辺牛湿原を含むパイロットフォレストなどがある釧路地区、②阿寒富士を源として太平洋へ注ぐ庶路川・茶路川流域の白糠地区、③阿寒湖や雄阿寒岳など阿寒摩周国立公園の中心部及び阿寒川流域に面する阿寒地区、④阿寒山系から屈斜路外輪山をとおり摩周岳にかけての山岳林及び釧路川上流部の弟子屈地区の4つの地区で構成されます。

【地域の課題】

現在、主伐期を迎えた森林が増えていることから、森林（収穫）調査箇所や再造林面積が増加しています。その一方で、地域では林業の担い手不足や労働力不足が続いており、森林整備等の作業を担う人材の確保が大きな課題となっています。

【課題解決に向けた目標】

「伐って、使って、植えて、育てる」という森林資源の循環を確立するため、民間と国が連携して生み出すイノベーションによる「新しい林業」を推進し、先進的な林業機械の活用などにより、造林・育林作業の省力化と効率化を図ることを目標としました。

【課題解決に向けた取組】

これまでに実施した誘導伐の現場では、大型機械による地拵えで生じるカラマツの天然更新稚樹の活用方法や保育方



カラマツ山取苗植栽試験

法について検証し、造林や育林作業の更なる省力化や効率化に向けた取組を実施していきます。



下刈り試験地(令和7年12月現地検討会)

また、森林調査では、地上型3Dレーザーを活用し、従来の調査方法との比較検証を実施し、調査適地の条件を検証していきます。



地上型3Dレーザー調査

【今後に向けて】

造林や育林作業の更なる省力化や効率化を進めるため、天然発生した稚樹の活用方法や保育方法の検証結果を関係機関と共有し、実際の現場で活用できるよう意見交換を行いながら普及を進めていきます。

また、森林調査についても、各種調査方法の比較検証を踏まえ、地上型3Dレーザーの調査に適した条件などを選定し、森林調査の簡素化と効率化を推進するとともに、職員の技術力向上にも取り組んでいきます。

林業の担い手不足が深刻化する中、こうした取組を実践することで、官民連携イノベーションによる「新しい林業」を推進し、現場での省力化や効率化に繋がるよう日々研鑽していきます。